

学生相談室におけるセラピードッグの取り組み

—— 心をつなげるセラピードッグのふれ合い ——

卜部 洋子¹ 辻 由依² 斉藤 美香³ 坂口 勝幸⁴

要 旨

近年、セラピードッグの活動に対する関心が高まっている。セラピードッグは人の心や身体の補助のために特別な訓練を受け、人の「心」に寄り添い、心癒され元気づける役割を担っている。学業や人間関係がうまくいかず落ちこむこと、1人暮らしでホームシックや他者と交流が少なく悩む学生が多い。セラピードッグとのふれ合い企画では、セラピードッグとふれ合うことで、不安や緊張した気持ちを和げ、自然と笑顔になって元気を取り戻す。また、セラピードッグがいると、初対面の学生同士でも共通の話題が生じ、コミュニケーションの場にもなることが示された。

更に、コロナ禍で人との交流が制限するなか、「視て癒される」セラピードッグの動画を本学のYouTubeで配信したところ、多くの学生、教職員、学外者が視聴し、学生相談室でセラピードッグのふれ合いを開催していることに対して、大きな反響があった。

本報告は、セラピードッグのふれ合いを通して、多くの学生や教職員が癒され、学生相談室でセラピードッグのふれ合いを開催する意味を検討するため、これまでの活動内容や取り組みについてまとめた。

キーワード：セラピードッグ、学生相談室、癒し、学生、教職員

1. はじめに

学生相談室の利用者は、増えてきているものの、学業や対人関係で悩み、誰にも相談できずに、長期欠席している学生が少なくない。そこで、学生相談室を気軽に利用しやすいように、2017年から月に1回、セラピードッグのふれ合いを開催してきた。毎回、たくさんの学生や教職員がセラピードッグのエースにふれ合いに来た。学生の呼びかけにエースは学生を見て、大きく尻尾を振って嬉しそうに近づき、学生も自然な笑顔でふれてきた。エースとふれ合いながら「温かい」

「ぬくもりを感じる」「可愛い」「癒される」と語り、セラピードッグから直接伝わってくる体温や感触を感じているようだ。また、1人暮らしの学生は実家を思い出しながら、飼っていた犬のこと、大切なペットが他界し悲しさや懐かしさを伝えたこと、友人やバイト先の人間関係で悩んでいること、就活のことで不安なこと等、自然に語りあう中、学生相談室につながることもあった。さらに留学生や教職員にとってもふれ合う機会になってきた。

しかしながら、2020年にコロナ禍の影響で、「セラピードッグのふれ合い」は開催できず、「視て癒される」セラピードッグの動画を本学のYouTubeでアップすることになり、多くの学生や教職員、学外者にも視聴された。現在、With コロナ（新型コロナウイルスとの併存）における感染対策のなか（内閣官房、2022）、事前予約制で「セラピードッグのふれ合い」を再開している。

日本ではセラピードッグが活躍する場所として、高

¹ 札幌学院大学 学生相談室；
urabe@ims.sgu.ac.jp.

² 札幌学院大学 学生相談室；
tuziyui@ims.sgu.ac.jp.

³ 札幌学院大学 心理学部臨床心理学科；
mksaito@sgu.ac.jp.

⁴ 札幌学院大学 経済経営学部経営学科；
saka0512@sgu.ac.jp.

齢者施設や病院等が多い。アメリカでは、大学キャンパスに広がっており、セラピードッグとふれ合うことで、ストレスを感じた学生の回復や前向きな学業面の意欲効果の研究報告がある (Washington State University, 2021)。また、コロナ禍の影響によって孤立や不安を抱えた学生の心のケアとして、セラピードッグのふれ合いの機会を増やす必要があることが報告されている (HEMHA, 2023)。

日本では学生へのセラピードッグのふれ合いについての研究は少なく、学生相談室でセラピードッグのふれ合いを開催するのは、国内でも初めての試みである。本報告では、セラピードッグのエースとふれ合う内容や取り組みについてまとめ、学生相談室における本企画の意味を報告する。

2. セラピードッグの役割と効果

セラピードッグはアニマルセラピーに属し、学術的に動物介在介入 (AAI) と呼ばれており、動物介在活動 (以下, AAA) と動物介在療法 (以下, AAT) に大きく分けられる。AAA はレクレーションの目的として、対象者の QOL を向上するのが目的である。また、AAT は、医療関係者と共同で記録しながら治療効果を高めることを目的としている (川添他, 2015)。

セラピードッグの効果について、最初に報告したのは、児童精神医の Levinson (1962) である (金井, 2018)。Levinson は、情緒的に問題を持つ子どもに対する心理療法を試みていたが、その子はなかなか心を開かず、引きこもりがちで治療がうまく進展しないまま長引いていた。ある日、その子どもが約束の時間よりずっと早く治療室に来たとき、偶然その部屋にいた Levinson の飼い犬が子どもの方に駆け寄り、大歓迎したことがあった。そのことをきっかけに子どもの方も心を開くようになり、その後治療者とも良好な関係を形成することが可能となり治療の進展がみられるようになった。このような経験から Levinson は子どもの心理療法において良い治療関係を作るためにイヌを用いる試みをするようになった。このような Levinson の実践が動物を子どもの心理療法に意図的に参加させる活動の始まりとなった (宮川, 2013)。また、精神分析学の S. Freud が、はじめての犬を飼い始めたのは、1927 年のことだった。その犬種はチャウチャウで、S. Freud が精神分析治療している間、傍らにいたことが記録として残っている (Cuvelier, 2014)。日本においても 20

世紀の初め頃に、森田療法と呼ばれる治療プログラムの中で動物の飼育が試みられている。森田療法では、「あるがまま」にいることを重要なものととらえている。このような「自然をそのまま受け入れる」ことを体験するため、共同作業や食事の準備など生活全般の当番の他に農作業や園芸などが行われていた (宮川, 2013)。

動物が人にもたらす効果と影響について、Levinson によれば、(1)心理的効果、(2)生理的・身体的効果、(3)社会的効果の3つをあげている。(1)心理的効果については、多くの飼い主が、動物と暮らすと「癒される」。この場合の「癒し」とは動物が人に対してリラックス効果をあたえている状況といえる。不安や緊張が軽減し、心理的に落ち着いた状態である。また、動物と暮らし責任をもって飼育をすることで、自信や意欲を得ることができる。(2)生理的・身体的効果については、動物を触ったり撫でたりする、あるいは見ているだけでも血圧や拍数が下がる。また、血中コルチゾール濃度が下がるということが分かってきた。これは、緊張がほどけて身体的にリラックスした状態になれるということである。(3)社会的効果については、動物と過ごすうちに、いつの間にか人に対して話しかけていることは、多くの飼い主が経験することである。このように動物と一緒にいることにより、発話が促され言語が活性化されることがある。子ども時代に動物飼育の経験をもつと、共感性や協調性が発達するものと言われている。自分より弱い存在である動物を飼うことは他者をいたわり、思いやる気持ちが育つと考えられる (川添他, 2015 の第7章「アニマルセラピーの歴史と概論」)。

3. セラピードッグのエースについて

- ・犬種：ラブラドルレトリバー
- ・年齢：8歳 (生年月日：2015年1月26日)
- ・性別：雄

セラピードッグとふれ合うなかで、学生から、エースがセラピードッグになるまでの経過と適性などを質問されることがある。セラピードッグのエースは北海道盲導犬協会の出身で、盲導犬としては不適合で、キャリアチャンジ犬となり、他の道を歩むことになり、筆者が譲り受けた。その当初から、エースは吠えたり噛んだりすることなく、穏やかな性格で人に懐いていた。そこで、盲導犬になる前の候補犬がどのような環境で

過ごしているのか知りたいと思い、北海道盲導犬協会指導部繁殖/パピー担当部長の加藤淳一氏に、インタビューした。エースもそのインタビューに同席した(2021年3月21日)。エースは久しぶりに北海道盲導犬協会へ行き、加藤氏に会い、大きく尻尾を振り、嬉しそうに近寄っていた。

—インタビューの内容—

「盲導犬は繁殖犬ボランティア宅で出生し60日間、そこで育てられる。その後、パピーウォーカーにパピー犬として1年間育てられる。その条件として、室内で飼える環境、家を長時間開けないことが必要であり、パピー犬は家族の一員として、愛情いっぱい育てられる。そこで、『人と一緒にいると楽しい』『人が大好き』という盲導犬にとって大切なことを養われる。ルールとしては、ベッドやソファに上がらない。人間が食べている時に、食べ物を手渡さない。飛びつきさせない。排泄は一定の場所でさせる。一番大切にしていることは、パピーウォーカーの家族と過ごすことで、コミュニケーションを大切にするように促している。また、パピー犬の頃から、人間社会のルールやマナーを身につけて行く」(掲載了解済)。

これらから、セラピードッグのエースが学生と教職員とのふれ合いで、吠えたり噛んだりすることなく、ルールを守れているのは、出生の時から、北海道盲導犬協会をはじめ、繁殖犬ボランティア、パピーウォーカー等の暖かい環境の中で育んできたことにつながる。

2017年3月にセラピードッグになるために適性試験に合格し、NPO法人北海道ボランティアドッグ会に所属し、現在に至る。ここでは、福祉、医療、

教育機関でボランティア活動をしている。

4. 学生相談室におけるセラピードッグのふれ合いの取り組み

2017年11月16日に、第1回目のセラピードッグのふれ合いを開催した。場所は学生相談室隣の学生支援課応接室で、5～6人の人数で、約5分間隔のサイクルで開始した。昼休みにもかかわらず、長蛇の列となり、106名の学生と教職員が参加し、大盛況に終わった。集まった学生らはセラピードッグのエースの耳、尻尾、口元や体をなでたりしながら「温かい」「ふわふわして気持ち良い」「柔らかい」等、エースから伝わる感触を感じていた。また、「大学にセラピードッグがいると、元気がでるし頑張れると思う」「幸せ」「セラピードッグのエースが可愛くて、優しい気持ちになれる」等、癒しを感じる声が多く聴かれた。この好評を受け、同年12月21日に第2回目の開催することとなった。以降、大勢の学生や教職員からセラピードッグ開催の要望を受け、2018年4月より月に1回、昼休みに継続的に開催することになった。また、セラピードッグのふれ合いをより多くの学生に体験してもらうために、開催場所がオープンスペースの広場に変更した(アクセシビリティセンター)。セラピードッグのふれ合いの参加人数について、表1にまとめた。毎回、多くの学生が参加しており、セラピードッグとふれ合うなかで、学業、友人関係、将来のことで悩んでいることを伝え、学生相談室の利用につながったケースもある。中には、長期欠席し、大学に来れない学生が、セラピードッグのエースに会うために、再登校する学生もいた。セラピードッグに会いたくても大勢のなかで触れるのが苦手な学生については、個別面談で対応することもある。2018年6月30日に、本学の第48回青嵐祭(大学祭)

表1 セラピードッグのふれ合い(参加人数)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2017年度	-	-	-	-	-	-	106	68	-	174
2018年度	123	68	大学祭	93	78	76	60	65	-	563
2019年度	102	89	大学祭	96	97	88	87	48	101	708
2021年度 (オンライン)	-	-	-	-	-	-	2	5	3	10
2022年度 (事前予約)	9	8	9	9	5	10	7	※29	12	98

(※両キャンパスで開催。江別キャンパス13人、新札幌キャンパス16人参加)

が行われ、その際、初めてのイベントとして、セラピードッグのふれ合いを開催した。NPO 法人北海道ボランティアドッグ会のボランティアと20頭のセラピードッグの協力のもと、本学の学生、10名がセラピードッグのボランティアスタッフとして参加し、学内をはじめ、地域の方々を含め、延818人が参加した。また、2019年6月25日に第49回青嵐祭が開催され、延747人が参加した。その後、コロナ禍の影響で、開催を見合わせた。

5. コロナ禍のセラピードッグのふれ合いの工夫

2020年1月より、新型コロナウイルスの感染拡大で外出を自粛する動きが広がるなか、人とのコミュニケーションが不足し、孤独感やストレスを感じる学生が増えてきた。本学も学生の入構制限に伴い、電話やTeamsによる遠隔ビデオ相談を開始するようになった。そのため、セラピードッグのふれ合いを中止せざるを得なくなった。

その状況の中、学生から「セラピードッグのエースに会いたい」「エースは元気になっているの?」「エースを見たい」等の声が聞かれた。何か方法はないか模索する中、Amazonの「あかちゃん」と「たてがみつけた犬」のCMを視て、とても癒され感動したことを思い出した。そのCMにヒントを得て、画像を通してセ

ラピードッグの温かさが伝わるかも知れないと思った。そこで、セラピードッグのエースが自然中で元気に過ごしている様子を動画で撮り、広報入試課の協力のもと、本学のYouTubeにあげるようになった。こちらの動画をアップしてから「かわいい」「心がなごむ」等の感想が聞かれ、セラピードッグのふれ合いは実際にできなくても、画像を通して心に響いたようである。

セラピードッグのYouTubeの記録を表2にまとめた(卜部, 2020a, 2020b, 2021a, 2021b, 2021c, 2022a, 2022b)。写真1は、Vol.1のYouTubeでたてがみ姿を披露した場面である。現在、5本の動画を本学のYouTubeにあげている。なかでもVol.4は、本学の河西邦人学長とセラピードッグのエースとほのぼのと過ごす動画の中で、河西学長より「コロナ禍で行動を制限するなか、人との交流が減り寂しくなる学生が多いので、そんな時こそ、セラピードッグとのふれ合いを通して、エースから伝わる温もりを感じて欲しい」と、メッセージを頂いた。このように、コロナ禍で、人との交流が制限する時だからこそ、セラピードッグから伝わる温かさや安らぎのひと時が大切である(写真2参照、記載了解済)

セラピードッグのYouTubeを配信することにより「視て癒されるセラピードッグ」として発信することができた。その後、学生から「エースのライブ配信をし

表2 セラピードッグのYouTube

札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エース Vol.1,	2020/04/28 (制作)→1,145回 PV (2023/1/13)
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エース Vol.2,	2020/11/12 (制作)→1,294回 PV (2023/1/13)
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エース Vol.3,	2021/06/14 (制作)→ 635回 PV (2023/1/13)
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エース Vol.4,	2021/11/05 (制作)→ 745回 PV (2023/1/13)
札幌学院大学学生相談室セラピードッグ	エース Vol.5,	2022/11/21 (制作)→ 231回 PV (2023/1/13)



図1(写真1)
たてがみ姿 YouTube, Vol.1



図2(写真2) 学長とのふれ合い YouTube, Vol.4

て欲しい」という要望があり、Teams による遠隔ビデオで「オンラインセラピードッグ」を開催した。参加者の中には、外国に住んでいる留学生の参加があり、セラピードッグを通じてオンラインで国際的な交流の場にもなった（掲載了解済）。

2022年度より、全面対面授業に伴い、事前予約制でセラピードッグのふれ合いを再開した。参加人数については、表1にまとめた通りである。感染対策を考慮し、セラピードッグのふれ合いは1～2人までとし、時間は10分間とした。久しぶりにセラピードッグのエースにふれあう学生は「エースと会いたかった。エースが元気で良かった」と嬉しそうに伝えていた。また、コロナ禍で入学した学生や新入生は「YouTubeやホームページでセラピードッグのエースを知り、やっと会えて良かった」「モフモフしたエース触れて癒される」等、笑顔を変えながら伝えていた。更に、2022年12月に新札幌キャンパスで開催することも実現した。セラピードッグのふれ合いに参加した学生と教職員はセラピードッグのエースに癒され、和やかな時間を過ごしていた。

6. セラピードッグのふれ合いの活動について

セラピードッグのふれ合いの活動を図1にまとめた。下記のスケジュールの通り、筆者と共に活動している。エースの朝の挨拶は尻尾を振りながら、学生と教職員にアイコンタクトしながら挨拶する。そんなエースを視て、学生と教職員は、忙しい朝にも関わら



図3 セラピードッグふれ合いの活動

ず、自然と笑顔でエースに「おはよう！」と、挨拶している。セラピードッグのふれ合いの前後に、排泄やおやつタイム等の休憩を入れている。写真3は、セラピードッグのふれ合いを学生相談室で待機している場面である。

7. 学外のセラピードッグの交流

・全国大学生サミットに、学生相談室からセラピードッグのエースも参加する。

2021年10月31日に、全国大学生生活協同組合連合会、全国大学生サミット実行委員会主催による、「全国大学生サミット」に、本学の学生相談室からセラピードッグとしてライブ中継に参加した（全国大学生生活協同組合連合会, 2021）。この「全国大学生サミット」は、コロナ禍の影響で、大学生活が思うように送れないなか、全国の大学生がオンラインで交流し、全国の大学生、教職員等を含め1,100人が参加した。また、「全国大学生サミット」にセラピードッグのエースが中継に参加させていただき、全国大学生生活協同組合連合会の藤本昌氏より次のように貴重な感想をいただいた。「学生に無条件の愛情を注ぐ“エースくん”は、命の大切さを伝える唯一無二の存在、学生相談室の垣根を取り除く役目を見事に果たしている、画面越しに彼から『学生相談の本来の目的』を問われた気がして、直後に『コロナ禍で心が疲れた学生が、家族同然のペットと対話している姿』が浮かんだ」（掲載了解済）。このように、セラピードッグは家族のような存在であり、学生相談



図4 (写真3) 学生相談室で待機場面

室にセラピードッグが居ることで、多くの学生が学生相談室を気軽に利用しやすくなり、相談しやすい環境が必要である。

・UHB 北海道文化放送の「みんテレ」の「金曜日のわんこ」に紹介される。

2021年12月17日に、UHB 北海道文化放送の「みんテレ」の「金曜日のわんこ」というコーナーにて、セラピードッグのエースが紹介された（ディレクター：小出昌範氏）。大学の職員として働いているセラピードッグとして、コロナ禍の影響で、オンラインセラピードッグを開始したこと、徐々に少人数からセラピードッグのふれ合いを再開していることも伝えられた。学生とエースとふれ合いながら、学生から「かわいい」「フワフワしている」「たまに実家の犬が恋しくなるのでエース君で癒やされたい」と、エースから伝わる温かさが伝えられた。このときの取材記録が、SASARU (2021) に掲載されている（掲載了解済）。

8. セラピードッグの保健衛生についての配慮

NPO 法人北海道ボランティアドッグ会の犬体検査（公衆衛生および人畜共通感染症への対策）に基づいて保健衛生の配慮を行っている。

毎年、動物病院で獣医により犬体検査を受けている。皮膚病・外耳炎・歯石のチェックなどの健康診断と、得られた材料から人獣共通感染症となる細菌・ウイルス・リケッチア・虫卵の検査を行っている。

- (1) 「清潔」良く手入れされているか。排泄物などの付着はないか。
- (2) 「臭気」体臭、口臭、耳。
- (3) 「手入れ」抜け毛の有無。
- (4) 「外部寄生虫」ノミ、シラミ、皮膚病等。
- (5) 「内部寄生虫」犬回虫症等の検便。
- (6) 「各種細菌学のおよび血清学的検査」エキノコックス・ブルセラ症・サルモネアラ症・エルシニア感染症。

・セラピードッグとふれあう際の衛生面の配慮

- (1) 学生→セラピードッグふれ合い前後にアルコール消毒してもらう。
- (2) 開催場所の学生相談室のドアと窓を開け、空気喚起する。
- (3) 事前にセラピードッグの毛のブラッシングと爪

切りを済ませる。

- (4) セラピードッグの排泄→トイレシートに済ませる。
- (5) セラピードッグ終了後は粘着テープでと掃除機を使って掃除する。

・感染予防対策

参加する学生の健康状態を把握するとともに、以下の症状があれば、断ることもある。

- (1) 37.5度以上の発熱がある。もしくは平熱比+1度以上の発熱がある。
- (2) 息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさがある。
- (3) 軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある。
- (4) その他体調が優れない。
- (5) 過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域へ訪問したことがある。
- (6) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる。
- (7) マスク着用での参加。
- (8) 利用する際に消毒液の利用、体温測定する。

9. まとめ

盲導犬が行う仕事は、「まっすぐ歩く」「交差点で止まる」「障害物をよける」「指示をされたものを探す」「危険な場合は指示に従わない」の5点である（北海道盲導犬協会, 2023）。エースは、盲導犬には向かなかったが、学生相談室のセラピードッグとして、学生や教職員へ癒しや安らぎを与えている。これらから、エースは学生相談室のセラピードッグとして「まっすぐ歩く」ことを果たしているように思われる。エースが吠えたり噛んだりすることなく、指示通りルールを守れることは、北海道盲導犬協会とボランティアの方々による、手厚く温かい環境の中で育んできたからである。また、セラピードッグの仕事は、「人と会うことが好きで人のふれ合いを通じて笑顔や気力を呼び起こす手伝いをしている」（NPO 法人北海道ボランティアドッグの会, 2023）。北海道盲導犬協会の加藤氏のインタビューで、「パピーウォーカーの家族と過ごすことで、コミュニケーションを大切にしている」ことから、セラピードッグのエースは、パピー犬の頃から人との交流を大切にしながら過ごしており、学生や教職員とのふれ合い場面で、アイコンタクトして、大きく尻尾を振って嬉しさを表現し、人と会うことやふれ合うことを喜

んでいることが理解できる。

セラピードッグの効果について、最初に報告したのは、児童精神医の Levinson であり、動物が人にもたらす効果と影響について(1)心理的効果、(2)生理的・身体的効果、(3)社会的効果の3点をあげている。また、治療の一環として、森田療法のプログラムの中で、動物とのふれあいを試みており、精神分析学の父と言われる S. Freud は精神分析治療している間、愛犬が傍らにいた。Levinson (1969) は、面接に介在する動物は、子どもなど、ことばで自己を表現することが難しいクライアントが自己を投影することのできるものだ、と述べており、セラピードッグは AAA の一環として大切な存在を担っている。

学生相談室の利用者は、増えてきているものの、学業や対人関係で悩み、誰にも相談できずに、孤独に過ごす学生が少なくない。また、対人関係の苦手な学生の多さも踏まえ、コロナ禍の影響で、人との交流が希薄となり、大学のキャンパスでもコミュニケーションの場が少なくなった。そんな時こそ、セラピードッグから伝わる温もりを感じながら、言葉のいらぬ交流で通じ合えることも可能である。セラピードッグのふれ合いをきっかけとして、学生相談室を気軽に利用しやすくなって欲しいと思う。

セラピードッグについて、海外ではアメリカの大学のキャンパスでセラピードッグのふれ合いが紹介され、ガイドラインも作られている (HEMHA, 2023) 一方で、国内では、学生相談室で「セラピードッグ」の導入は初めての試みである。今後もセラピードッグのふれ合いを継続し、セラピードッグのふれ合いによる効果について、更なる研究を続けたい。セラピードッグのふれ合は、イヌ好きな学生を対象にすることが多いが、動物アレルギーがある学生や動物が苦手な学生もいるので、そこを十分配慮しながら、より広い視点でセラピードッグのふれ合いを研究することも必要であろう。

謝辞

平素より、お世話になり、学生相談室のセラピードッグの導入に多大なご尽力をいただき、本学の河西 邦人学長と新札幌キャンパス学生支援課 廣嶋進課長並びに江別キャンパス学生支援課 佐藤博昭課長に感謝いたします。

また、本研究のインタビューに協力していただいた、

北海道盲導犬協会指導部繁殖/パピー担当部長の加藤 淳一氏、UHB 北海道文化放送の「金曜日のわんこ」コーナーにて、紹介していただいた、UHB 北海道文化放送ディレクター小出昌範氏、全国大学生サミットで大変お世話になり、感想にご協力をいただいた、全国大学生活協同組合連合会の藤本昌氏に感謝いたします。

最後に、セラピードッグのエースに関わって頂いた、北海道盲導犬協会のスタッフとボランティア皆様、北海道ボランティアドッグの皆様、本学の学生と教職員、そして、本研究に御協力いただいた全ての皆様に感謝いたします。

参考文献

- [1] HEMHA (Higher Education Mental Health Alliance) (2023). Animals On Campus: Current Issues and Trends A HEMHA Guide, <https://hemha.org/animals-on-campus-guide>. (2023年1月10日閲覧)
- [2] Cuvelier, J. (2014). 犬大好き!, 株式会社グラフィック社. 翻訳: 川崎由起子. 発行者: 久世利郎.
- [3] 金井正美 (2018). コンパニオン・アニマルとしてのイヌが人々に与える心理的・社会的影響, 人間生活文化研究, No. 28, 303.
- [4] 川添敏弘・堀井隆行・山川伊津子・赤羽根和恵 (2015). 知りたい! やってみたい! アニマルセラピー. 駿河台出版社, 163-180.
- [5] 公益財団法人北海道盲導犬協会 (2023). <https://www.h-guidedog.org/> (2023年1月10日閲覧)
- [6] Levinson, B. M. (1962). The dog as a "co-therapist" Mental Hygiene, 179, 46-59.
- [7] Levinson, B. M. (1969). Pet-oriented child psychotherapy Charles, C. Thomas Publisher. (川原隆造訳 (2002). 子どものためのアニマルセラピー日本評論社).
- [8] 宮川治樹 (2013). アニマル・セラピーって……? 一動物介在活動総論として一, Journal of Animal and Therapy. 9-16.
- [9] 内閣官房 (2022). 新型コロナウイルス感染対策. with コロナに向けた政策の考え方. <https://corona.go.jp/withcorona/> (2023年1月10日閲覧)
- [10] NPO 法人北海道ボランティアドッグの会 (2023). <http://www.volunteer-dog.com/> (2023年1月10日閲覧)
- [11] SASARU (2021). “癒し”がお仕事「ボクは大学職員わんこ」人気者のラブドール【金曜日のわんこ】, https://sasaru.media/article/media/20220107_001 (2023年1月10日閲覧)
- [12] 卜部洋子 (2020a). 札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エース, Vol. 1, <https://www.youtube.com/watch?v=QjrYvIPHS0c>. (2023年1月13日閲覧)
- [13] 卜部洋子 (2020b). 札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エース, Vol. 2, https://www.youtube.com/watch?v=kR3xTWpQE_c. (2023年1月13日閲覧)

- 覧)
- [14] ト部洋子 (2021a). 第6報 コロナ禍での学生相談のさまざまな取り組み その1,セラピードッグの動画配信, 日本学生相談学会報学生相談室ニュース 2021. April No. 127.
- [15] ト部洋子 (2021b). 札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エース, Vol.3, https://www.youtube.com/watch?v=T_tjwnFK_QY. (2023年1月13日閲覧)
- [16] ト部洋子 (2021c). 札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エース, Vol.4, https://www.youtube.com/watch?v=_nvS5sRkryI. (2023年1月13日閲覧)
- [17] ト部洋子 (2022a). 札幌学院大学のセラピードッグの導入と動画配信の取り組み, 札幌学院大学社会貢献シーズ集2022, https://seeds.sgu.ac.jp/post_seeds/post_seeds-623/ (2023年1月17日閲覧)
- [18] ト部洋子 (2022b). 札幌学院大学学生相談室セラピードッグ エース, Vol.5, <https://www.youtube.com/watch?v=29iIsMYq5OE>. (2023年1月13日閲覧)
- [19] Washington State University (2021). Petting therapy dogs enhances thinking skills of stressed students, <https://news.wsu.edu/press-release/2021/05/12/petting-therapy-dogs-enhances-thinking-skills-stressed-college-students/%EF%BC%89/> (2023年1月10日閲覧).
- [20] 全国大学生生活協同組合連合 (2021). 会国大学生サミット, <https://www.univcoop.or.jp/activity/summit/index.html> (2023年1月10日閲覧)

Therapy Dog Initiative in the Student Counseling Center — Interactions with Therapy Dogs Connecting Hearts and Minds —

Yoko URABE¹, Yui TSUJI², Mika SAITO³ and Katsuyuki SAKAGUCHI⁴

Abstract

In recent years, there has been growing interest in the activities of therapy dogs. Therapy dogs are specially trained to assist people's mental and physical health, and they play the role of being close to people's "hearts" to heal and cheer them up. Many students suffer from depression due to poor academic performance or relationships, homesickness from living alone, and lack of interaction with others. At such times, interacting with a therapy dog eases their anxiety and nervousness, and they naturally smile and regain their energy. In addition, the presence of a therapy dog provides a common topic of conversation among students who have never met each other before, making it a good place for communication.

In addition, while interactions with people were restricted due to the COVID-19 pandemic, a video of a therapy dog entitled "Seen and Healed," was distributed on the University's YouTube channel, which was viewed by many students, faculty members, and people outside the University. This study summarizes our past activities and efforts in order to show that many students and faculty members are healed through therapy dog interactions and to convey the excellence of holding therapy dog interactions in the Student Counseling Center.

Keywords: Therapy dog, Student Counseling Center, Healing, Students, Faculty Members.

¹ Student Counseling Room, Sapporo Gakuin University; urabe@ims.sgu.ac.jp.

² Student Counseling Room, Sapporo Gakuin University; tuziyui@ims.sgu.ac.jp.

³ Department of Clinical Psychology, Sapporo Gakuin University; mksaito@sgu.ac.jp.

⁴ Department of Business and Administration, Sapporo Gakuin University; saka0512@sgu.ac.jp.

